

〈特別活動〉

「主体的な学び」に向かう力を育む授業づくり

—— 学習プランニングシートを活用した振り返り活動を通して（第1学年） ——

うるま市立与勝中学校教諭 伊 波 美和子

I テーマ設定の理由

グローバル化の進展や人工知能技術の革新等により、社会を取り巻く環境が予測困難な時代となっている。21世紀を生きる子供たちは、現在と未来に向けて、持続可能な社会の担い手として自らの人生をどのように切り拓いていくかが求められている。このような社会情勢を踏まえて、『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別活動編』（以下『解説特別活動編』）では、集団活動の意義を理解し、行動の仕方を身につけることや集団や自己の課題解決に向けて話し合い、合意形成を図り意思決定できる学習のプロセスが重視されている。さらに、人間としての生き方について考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養うことが明記されている。「主体的な学び」に向かう力を育むためには、現在の学習が将来の自己の基盤になることや個や集団（学級等）の諸課題に、自他の良さや可能性を発揮しながら、多様な視点で課題解決に向け粘り強く計画的に取り組む学習を積み重ねる過程が重要である。また、その過程で自己の成果と課題を自覚し、新たな課題解決に向かう振り返り活動が必要である。

本学級の生徒の実態は、学習面や学校生活面の振り返り活動では、取り組みを肯定的に捉えることができず、定期テストの結果そのものの感想を記入したり、学校生活での反省点や改善点を記述したりする傾向が続いている。そのため、生徒は、自己の変容を自覚できないまま、「次の目標」を掲げるなど、振り返り活動自体が自己の課題や改善点の蓄積記録となっている。このような振り返り活動の積み重ねでは、成果と課題を自ら見だし、試行錯誤を繰り返しながら「主体的な学び」に向かう生徒の姿があまり見られなかった。

これまでの私自身の実践を振り返ると、計画と実践を意識した授業展開を重視していたため、振り返り活動に時間をかけることができず、振り返りのコメント欄を書き埋めることに注力した活動となりPDCAサイクルを通して学習の好循環を生み出す授業展開ができず、「主体的な学び」に向かう力を育てていたとは言えない。

そこで、本研究では、学習の記録と振り返りの記述を蓄積する学習プランニングシートの教材作成し、日々の自主学習（以下、『学習』）の振り返りの蓄積を行う。次に、蓄積した内容を整理分析することを通して成果と課題を自覚し、新たな課題解決に向けての見通しを持たせる。課題解決に向けて意思決定する過程では、協働学習を通して多様な価値に触れ、新たな自分発見となる機会を位置づける。具体的には、「新たな学習法を見つけよう」を題材に設定し、学級活動（3）の話し合い活動を行う。このように、学習の計画・実践したことを振り返り、成果と課題を自覚し、新たな課題改善への実践につなげるPDCAサイクルの視点を取り入れた振り返り活動の充実を図ることで「主体的な学び」に向かう力を育むことができるのではないかと考え、本テーマを設定した。

〈研究仮説〉

新たな学習法を探る話し合いの場で、学習プランニングシートを活用した振り返り活動を充実することで、「主体的な学び」に向かう力を育むことができるであろう。

II 研究内容

1 「主体的な学び」に向かう力について

(1) 「主体的な学び」とは

『例解学習国語辞典』(2020)によると「主体的」とは、「自分の意志や考えによって行動するようす」と示されている。つまり、自分自身で物事に価値づけし、意思決定したことを行動化する行為と捉えることができる。『解説特別活動編』では、特別活動における「主体的な学び」について、「学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる」と示している。また、『沖縄県教育委員会 沖縄県学力向上推進 5か年プラン・プロジェクトⅡ』(以下、『PPⅡ』)では、「一人一人の良い点や成長した点について積極的にフィードバックを行い、これまでの学びとこれからの学習活動を結び付けながら児童生徒の主体的な学習活動を引き出すような学習指導の充実を図る」と記されている。

本研究では、「主体的な学び」に向かう力が実現できた生徒の姿として①見通しの段階や問題解決の段階で、学習の成果と課題を自覚し、多様な価値に触れながら、課題解決に向けて意思決定する姿。②意思決定したことについて、目標の実現に向け、粘り強く取り組み、新たな課題の発見につなげようとする姿とする。

そこで、PDCAのサイクルの視点から、学習の振り返り活動を通して生徒自身に自己の成長を実感させ、新たな課題を見いだし、粘り強く取り組む学習活動を意図した授業づくりが必要と考える。

(2) 「主体的な学び」を育む学習過程とは

本研究では、特別活動学級活動(3)の学習過程において意図的な学習活動を実践していく。その過程で、子供たちに「気持ち(情動)」や「向き合う姿(態度)」の変化を実感させ、試行錯誤をしながら「主体的な学び」に向かう力の育成を図っていく。そのために図1のような学習過程を踏まえた授業実践をする。加えて、図1の学習過程に迫るために特別活動の年間指導計画に沿って「新たな学習法を見つけよう」の題材を設定し、定期的な振り返り活動を設定する。1学期の定期テストの振り返りやキャリアパスポートの記述内容から、自己の学習に向かう成果と課題の分析を行い、学習に対する自己の課題解決に向けて考えを持たせることから始める。次に、学級の話し合い活動において、共通する課題に対して具体的な解決法等を見いだし、自ら試行錯誤を繰り返し学習の自己調整を図りながら粘り強く取り組ませる。その際、自己評価の振り返りのみならず、適宜、教師からによるフィードバックや生徒間の相互評価を行うことで、自分では気づかない内面的な評価を積極的に自覚させ、自己の良い点や成長した点について価値づけをし「主体的な学び」に向かう力を育てる。

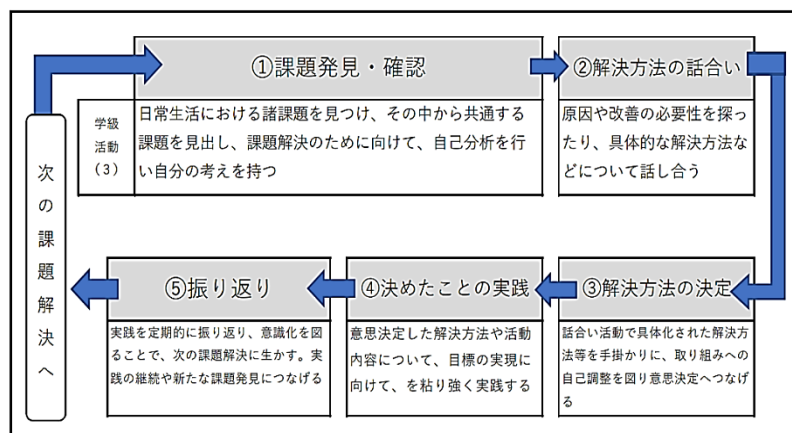


図1 学級活動(3)における学習過程

2 学習プランニングシートとは

学習や生活の見通しを立て、振り返る教材の活用について『解説特別活動編』では「学校、家庭及び地域における学習や生活の見通しを立て、学んだことを振り返りながら、新たな学習や生活への意欲につなげたり、将来の生き方を考えたりする活動を行うこと。その際、生徒が活動を記録し蓄積する教材等を活用すること。」と位置付けている。さらに、生徒の活動を記録する教材として、自らの言葉で振り返りを記述して蓄積するポートフォリオ的な教材を使用することを示している。このことから、生徒一人一人の学習の記録を振り返って、成果や課題などを客観的に分析できるよう教材を作成する必要があると考える。

(1) 学習の記録

学習の記録は、週のはじめに目標を設定し、毎日の学習内容と時間を記録していくシートである。具体的には、次の手順で行う。①1週間の学習時間の目標を設定する。②日々の学習を振り返り、学習内容と取り組み時間の記録を行う。③1週間の学習の合計時間を記録し、評価基準を設定して自己評価につなげる。このようにパターンを形成し、繰り返し学習記録を行うことで、学習計画・実行したことを1枚の記録用紙で見える化する。そうすることで、学習内容と取り組み時間、バランスの良い取り組みとなっていたかなど量と質を客観的に振り返ることができる。学習の記録の様式は、沖縄県版キャリアパスポートの補助シート、ワーキングポートフォリオを参考に、本学級生徒の実態に応じて変更を加えて作成した。(図2・左面)

(2) 4つの視点を踏まえた振り返り記述

「4つの視点を踏まえた振り返り」とは、小林恵智が2002年に開発したSEP (Self Expanding Program) の方法論で考案された「4行日記」を参考に学習プランニングシートに取り入れたものである。自分の良さを生かし、めざしたい姿や課題解決能力が鍛えられ、見通しを持って取り組む効果が期待できる。

振り返りの記述では、あらかじめ表1のように4つの視点を示し、自分の考えや思いを書いていく(図2・右面)。記述の蓄積を行い、自らの歩みを整理分析することで、自己の変容に気づかせ、取り組みへの価値づけを行っていく。

藤井(2020)は、「自分の言葉で、自分の考えや気持ちを語っているところに『主体的な学び』がある。」と示している。このことから、内面的な気づきや変化が、主体的な活動の原動力となると捉え、4つの視点を踏まえた振り返りの記述を通して、「何を学び」「どう考えたのか」また、「どのように学んでいきたいか」などを自分の言葉で語り、自己の成長を実感させ、新たな課題に見通しを持って取り組む「主体的な学び」に向かう力を育む研究を進める。

表1 「振り返り」の視点

視 点	項 目	記述内容
視点①	事実(学習内容)	取組内容及び、学習者の考え方や行動の
視点②	発見(気づき)	特徴から「成果」と「課題」の自覚
視点③	教訓(根拠)	課題解決のため取組や課題要因
視点④	宣言(次への挑戦)	新たな見通し(挑戦し続ける粘り強さ)

2 学期の期末テスト結果！										確認担当者：() 11/1(月)～11/7(日)																
教科	国語	社会	数学	理科	英語	音楽	美術	保健	技・家	合計	満足度	評価基準：①もっと書こう ②理由も書こう ③何を学んだの？ ④次にやってみたいことは？ ⑤よかったね。この調子でフアイト！														
点数										/900	/100															
○ 理想の学習時間(将来の自分のために、本書はこれくらい勉強するべきと考えている時間) 分 ○ 最低学習時間(毎日、最低限頑張る時間＝毎日の自分との約束) 分												1 学習内容 2 発見 3 なぜ(根拠) 4 改善														
月	11/1	時間(分)											11月1日	1 学習内容 2 発見 3 なぜ(根拠) 4 改善	11月2日	1 学習内容 2 発見 3 なぜ(根拠) 4 改善	11月3日	1 学習内容 2 発見 3 なぜ(根拠) 4 改善	11月4日	1 学習内容 2 発見 3 なぜ(根拠) 4 改善	11月5日	1 学習内容 2 発見 3 なぜ(根拠) 4 改善	11月6日	1 学習内容 2 発見 3 なぜ(根拠) 4 改善	11月7日	1 学習内容 2 発見 3 なぜ(根拠) 4 改善
火	11/2	時間(分)											11月2日	1 学習内容 2 発見 3 なぜ(根拠) 4 改善	11月3日	1 学習内容 2 発見 3 なぜ(根拠) 4 改善	11月4日	1 学習内容 2 発見 3 なぜ(根拠) 4 改善	11月5日	1 学習内容 2 発見 3 なぜ(根拠) 4 改善	11月6日	1 学習内容 2 発見 3 なぜ(根拠) 4 改善	11月7日	1 学習内容 2 発見 3 なぜ(根拠) 4 改善		
水	11/3	時間(分)											11月3日	1 学習内容 2 発見 3 なぜ(根拠) 4 改善	11月4日	1 学習内容 2 発見 3 なぜ(根拠) 4 改善	11月5日	1 学習内容 2 発見 3 なぜ(根拠) 4 改善	11月6日	1 学習内容 2 発見 3 なぜ(根拠) 4 改善	11月7日	1 学習内容 2 発見 3 なぜ(根拠) 4 改善				
木	11/4	時間(分)											11月4日	1 学習内容 2 発見 3 なぜ(根拠) 4 改善	11月5日	1 学習内容 2 発見 3 なぜ(根拠) 4 改善	11月6日	1 学習内容 2 発見 3 なぜ(根拠) 4 改善	11月7日	1 学習内容 2 発見 3 なぜ(根拠) 4 改善						
金	11/5	時間(分)											11月5日	1 学習内容 2 発見 3 なぜ(根拠) 4 改善	11月6日	1 学習内容 2 発見 3 なぜ(根拠) 4 改善	11月7日	1 学習内容 2 発見 3 なぜ(根拠) 4 改善								
土	11/6	時間(分)											11月6日	1 学習内容 2 発見 3 なぜ(根拠) 4 改善	11月7日	1 学習内容 2 発見 3 なぜ(根拠) 4 改善										
日	11/7	時間(分)											11月7日	1 学習内容 2 発見 3 なぜ(根拠) 4 改善												
合計時間	国語		社会	数学	理科	英語	その他	1週間の学習時間と評価																		
評価基準	A→ 自学自習に工夫して丁寧に取り組み、理想時間に近い時間取り組んだ B→ 自学自習に工夫して取り組み、毎日最低学習時間は取り組んだ C→ 自学自習に取り組む、平均すると最低学習時間は取り組んでいる D→ 自学自習にあまり取り組めなかった										合計															
「できるようになった」こと(成果)												「次、できるようにになりたい」こと(課題)														

図2 学習プランニングシート

本研究では、学期末試験の2週間前から学習プランニングシートを3クール取り組む(1週間で1クールを3回)。1週間ごとに、学習プランニングシートで蓄積した記録を整理分析し、成果

と課題の自覚を持たせることから始める。また、「できた」や「できなかった」の振り返りにならないように、「何が功をしてできたのか」「どうしたら、できるようになるのか」を表1の振り返りの視点③と④を重視して取り組む。このように、これまでの取り組みに足りなかった「振り返り」の質を向上させることで、学習プランニングシートの活用が振り返りに有効であることを実感させる。

3 振り返り活動について

(1) 「主体的な学び」を支える振り返り活動

『P P II』では、視点①において「生徒の良い点や成長した点などについて、適切に把握しフィードバックを行い、生徒が自分の特徴に気づき、良いところを伸ばし、自己肯定感を高めながら学校生活を送ることが、主体的に学習に取り組む態度（自らの学習を調整し、粘り強く取り組む）につながる。」と示されており、振り返り活動を通して教師からのフィードバックの重要性があげられている。本研究では、「主体的な学び」に向かう力を育むために、学習プランニングシートを活用した学習の記録と振り返り記述の蓄積を行う。また、蓄積した資料を基に整理分析することで自己の成果と課題を自覚し、課題解決に向けた具体的な取り組みを意思決定する振り返り活動を繰り返し行う。その過程を通して、生徒が自らの成長を実感し、「こうになりたい」「こう成長したい」と思う意欲を高めていく。そのために、教師は生徒の学習の状況を適切に把握し、取り組みへの肯定的な評価を積み重ねていく。

(2) 学習過程を踏まえた振り返り活動

『解説特別活動編』において、「学級活動（3）の指導において、学校での教育活動全体や家庭、地域での生活や様々な活動を含め、学習や生活の見通しを立て、学んだことを振り返りながら、新たな学習への意欲につなげたり、将来の生き方を考えたりする活動を行う必要がある」と示されている。また、藤井(2020)は、『振り返り』の意義で、学習活動に対する『振り返り』は、子どもたちがそれぞれの『学びを深める』ために必要であり、単元の途中や単元の終了後に自分の学びを自覚させることが必要」と述べている。本研究においても、この論を参考にして、定期的な振り返り活動を取り入れた授業実践を行う。学習プランニングシートを活用した振り返りを通して、自らの成果と課題を見だし、課題解決に向かう過程で、学級活動の話し合い活動を通して多様な価値に触れながら、学習の自己調整を行い、意思決定につなげ、粘り強く取り組むことを体得させていきたい。そのために、中間評価を位置づけ相互評価や自他の共通する課題解決を図りながら学習の自己調整を行い、意思決定に結び付けていく。さらに、事後指導の場では、学期末のキャリアパスポートを活用し学習や生活の見通しを立て、学んだことを振り返りながら、新たな学習への意欲につなげ「になりたい自分」に近づける成長の糧となる振り返り活動を行っていく。

III 指導の実際

1 題材名「新たな学習法を見つけよう」

学級活動（3）一人一人のキャリア形成と自己実現

ア 社会生活、職業生活との接続を踏まえた主体的な学習態度の形成と学校図書館等の活用

2 題材目標

- (1) 学習プランニングシートを活用して、自己の良さや課題等を理解し、実現可能で自己評価できる学習計画を設定する方法を身に付けている。【知識及び技能】
- (2) 集団の中で、個々が共通して直面する現在及び将来にかかわる課題を見だし、適切な情報を収集して考え、意思決定している。【思考力、判断力、表現力等】
- (3) 自己の目標達成のために、自ら学習の調整を行いながら見通しを持ったり、振り返ったりしながら自己調整し粘り強く活動しようとしている。【学びに向かう力、人間性等】

3 特別活動 学級活動（3）の評価規準

よりよい生活を築くための 知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよく しようとする態度
・自分の良さを生かし、学習の調整を行いながら「なりたい自分」を実現していくことの意義を理解している。 ・現在の学習と将来とのつながりを考え、PDCAサイクルの実現を図るために、必要な知識及び技能を身に付けている。	・自分らしい生き方の実現に向け、現在の学習や将来の進路について課題を見出している。 ・主体的に学習に取り組み、自己の将来について考え、適切な情報を収集し、意思決定して実践している。	・将来の生き方を見通したり、現在の生活や学習を振り返ったりしようとしている。 ・学び成長し続けることの意義を意識し、将来の目標に向けて自己実現を図ろうとしている。

4 指導と評価の計画

活動	期 日 活動の場	活動の内容	指導上の留意点	◎目指す生徒の姿 【観点】〈評価方法〉
事前指導 (期末試験二週間前から)	(1) 10/25(月) 学級活動	・期末試験に向けて学習計画を立てる ・日々の自主学習への取組記録をつける (毎朝、登校したら記録をつけて提出)	・1学期の期末試験の成果と課題から、「次は、このように取り組みたい」と自分の思いを持たせ、学習計画を立てられる	◎1学期の成績を振り返り、「課題」を見だし、課題改善のために学習計画を立てることができる 【知技】〈行動観察・記述内容〉
	(2) 11/1(月) 学級活動	・学習プランニングシートの取り組みと「振り返り」の意義と方法を理解する	・4つの視点を置いた振り返り記述の仕方を理解し、現在及び将来の学習と自己実現とのつながりについて理解を図る	◎根拠を持った振り返りの記述方法を理解することができる 【知技】〈事前・事後アンケート・行動観察〉
	(3) 11/4(木) 朝学習	・朝の課題を解く 「2円は50円の何%か」	・協働学習を通して、振り返りの場面で4つの視点を踏まえた振り返りの記述を行う	◎協働学習を通して、自己の良さや多様な視点で学ぶ意義を理解しようとしている 【態度】〈行動観察・記述内容〉
話し合い活動	(4) 11/15(月) 学級活動	・学習の取り組みを振り返り、自分の「良さ」をさぐる	・自分の「良さ」に気づかせ、プラス思考で振り返ることができるように視点の持たせ方に留意する	◎自分の「良さ」を知り、現在の学習取り組みについて成果と課題を見いだしている 【思判表】〈記述内容・授業アンケート〉
	(5) 11/19(金) 学級活動	・学習の取り組みを相互評価し、自分の良さを生かす学習方法をさぐる	・「良さ」を自覚するメリットや評価する視点を理解させ、取り組みの価値づけを相互に行う (授業アンケート実施 →記述変容実感について)	◎自らの取り組みを振り返り、成果や課題を整理し、課題解決方法を考え意思決定できる 【思判表】〈行動観察・記述内容〉
	(6) 11/29(月) 道徳	・「節度と節制」について理解し、卒業生からのメッセージを見て、自分の日常を振り返ってみる	・極端な学習法や取り組み方は続かない。そこには「節度と節制」を取り入れバランスよく生活を送る大切さを理解させる	◎よりよい学習習慣を築く大切さを理解し、自己の取り組みを見直そうとしている 【態度】〈行動観察・記述内容・アンケート〉
	(7) 11/30(火) 学級活動 検証① 本時	・「新たな学習法を見つけよう」のテーマのもと、級友のプレゼンテーションから学ぶ	・級友の成功体験談を聞き、自己の課題解決のために、新たな学習法を考えることができるよう、時間を十分に取れるよう授業展開に気をつける	◎多様な価値に触れ、課題解決のために意思決定し、学習の自己調整を通して粘り強く取り組む態度を身に付ける 【知技】〈記述内容〉
事後指導	(8) 12/13(月) 学級活動	・「我がクラスの成長を振り返ろう」をテーマに自分自身の学級への貢献度をみつめる	・入学して今までを振り返り、「成長」に目を向けさせ、成果と課題をあげさせる。 ・見いだした課題にどのように取り組むか一人ひとり考えを記述する。(学級のために)	◎学級目標の振り返りを行い、成果と課題を見だし、より良い学級づくりのための振り返りをしようとしている 【態度】〈行動観察・記述内容〉
	(9) 12/17(金) 学級活動 検証②	・キャリアパスポートに2学期の学習と学校生活の振り返りをする	・4つの視点を踏まえた振り返りを意識させ、成果と課題をあげられるようにする ・キャリアパスポートを記述式へするため一部様式変更	◎取り組みの成果や自己の変容を自覚させ、次の課題を見いだしている 【思判表】〈記述内容・授業アンケート〉

5 本時の学習指導（7／9時間）

(1) 目標

- ① 自己の課題解決に向けて、実行可能で自己評価できる学習法を考えることができる。
- ② 多様な価値に触れ、個人目標の意思決定することができる。

	学習活動	指導上の留意点 ○（生徒の反応） □（教師の発問等）	◎目指す生徒の姿 【観点】〈評価方法〉
導入 5	1 前時の振り返り 自主学習の成果と課題を確認 2 4つの「きく」を理解する	○自己の取組の成果と課題について ペアで伝え合う □4つの「きく」の中で、今日の学習 に向かう姿勢として選びたい 「きく」の選択	◎「訊く」の意義を理解し、 実践することを心得ている （前時の道徳の学習事項）
展開 40 分	3 議題を知る (1)「なりたい自分」を考えよう →学習や生活の課題を克服した 自分を見つめる 4 成功談のプレゼン →学校生活や授業中の工夫、 自主学習の取り組みや時間の使 い方、過去のエピソードなど (1) 1人目 2学期 学年トップの学習法 (2) 2人目 1学期 学年トップの学習法 5 自分の学習法を考える *個の課題に沿って、実現可能 で自己評価できる学習法を見い だす 6 グループで検討会 *実効可能であるかを協議する *良いと思う点などを付箋に書 いて発表者へ渡す	○本時の流れを知る 議題:「新たな学習法を見つけよう」 □今日の学習が終えたころには、ど んな事が分かっていたいか想像し てみよう！ ○聞き取りながらメモを取れるよう にワークシートを活用する □自分の学習方法を考える過程で、 日頃の授業のメモ取り・宿題の活 用法・帰宅後の学習時間・環境・ テスト前の学習方法、モチベーシ ョンの維持などについて体験談を 参考に考え、自分の言葉で表出さ せる。 □班長の進行手順を機能させる ○発表→発表に対する感想と要検討 事項を確認→検討事項があれば、 グループからのアドバイス→メモ を取る ○検討後、訂正し決定した学習法を ワークシートに記入し提出	◎学習活動を通して、学んだ 自分のイメージを持たせる （勉強方法が…／考え方が… ／気持ちなどが…） ◎工夫・粘り強さ、積み重 ね、続けることなどキーワ ードが出せる  ◎体験談から学んだことを生 かし、自分の良さや課題を整 理し、他者からの助言をもと に、改めてこれからの学習方 法を決定することができる 【知技】〈ワークシート〉
終末 5 分	7 振り返り	○授業前にイメージした「なりたい 自分について振り返りをワークシ ートに記入 □本時の取組を行うために、学習プ ランニングシート（新）の配布と 記録手順の確認	◎課題解決を見いだすことが 「できた」「できなかった」 を理由とともに述べること ができる

IV 仮説の検証

本研究の研究仮説に基づき、学習プランニングシートを活用した振り返り活動を通して、「主体的な学び」に向かう力を育むことができたかについて、学習プランニングシートの振り返り記述内容の分析、検証授業の振り返りアンケート、学期末キャリアパスポートの記録、検証前、検証後アンケートをもとに検証を行う。

1 学習プランニングシートの効果についての検証

生徒自らの言葉で学習の振り返りを行うために、学習プランニングシート及び学期末キャリアパスポートを活用する際は、4つの視点を踏まえた振り返り記述の蓄積を行った。その記述内容から自己の学習に向かう姿勢（特徴）や情動の変化等を整理分析することで、自己の変容を自覚し、新たな課題に見通しを持って「主体的な学び」に向かう力が育まれたかを考察する。

(1) 4つの視点を踏まえた振り返りの記述の効果について

第1時・第2時の事前指導では、学習計画と実践を行いながら、振り返り記述の視点について確認を行った。振り返り記述を行う際、取り組みの感想や課題の積み重ねにならないように、表1で示した視点の項目及び記述方法について指導を行った。指導は短い時間で繰り返し行えるように、朝の活動時間滞に週2回程度、学級全体で学習プランニングシートの困り感についてフィードバックを行った。取り組みをはじめてすぐに、4つの視点を踏まえた振り返りの記述の難しさが課題として挙がった。そこで、教師からのフィードバックを行いながら、生徒間で振り返り記述の相互確認を行うことを促した。学習プランニングシートの取り組み1週目は、視

点①と②のみ記述する生徒が多かった。しかし、第3週目には、4つの視点を踏まえた振り返りの記述ができるようになった生徒が図3のように変化した。

学習プランニングシートの振り返り記述についてアンケート結果を分析し、4つの視点を踏まえた振り返り記述の効果を分析する。検証の前後で、質問項目「振り返りでは、具体的に自分の考えや思いを表現できる」において、検証前は「できる」と肯定的な回答が50%に対し、検証後の肯定的な回答が35.9ポイント増加した。特に、検証前には無かった「しっかりできる」が37.9%となり、顕著な伸びを見せている(図4)。

また、「何をどのように取り組んだから、分かったのか」を意識して振り返り、新たな課題解決に向けての抱負を語るができるようになった。これは、生徒が「何を学習し」(視点①)、「どう考えた」(視点③)から、「学びや気づき」(視点②)があったのかを思考し、成果と課題を見出し、次の学習課題に向かうこと(視点④)ができるようになったと思われる。学習の取り組みに根拠を持って表現できるようになることは、振り返りの仕方を身に付け、自分の成長を実感することにつながったと思われる。

(2) 学習プランニングシートの効果の検証

第1時から第4時までの間に、定期試験前の学習計画を立て実践しながら、学習プランニングシートを3週間取り組んだ。学習の記録と4つの視点を踏まえた振り返り記述の蓄積を行い、第4時・第5時の授業で、蓄積した記録から成果と課題、自分の強みなどについて整理分析し、相互評価を行った。授業終了後の振り返り自由記述には、「自分の得意な教科を多く取り組んでいたの、苦手な教科にももう少し多く取り組む」、「教科書やワークを使って学習することが多いので、テスト前に復習できるようにまとめ方を工夫していて良かった」など、記録の蓄積から客観的に自分の学び方を整理分析できるようになっていた。

第5時の授業をとおして、複数の生徒から学習プランニングシートの様式変更の提案があった。提案理由として、日々の学習の振り返り

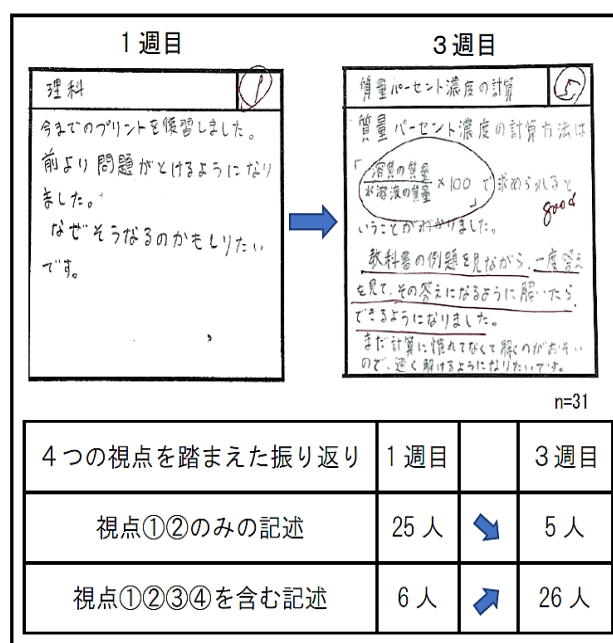


図3 4つの視点を踏まえた振り返りの変容

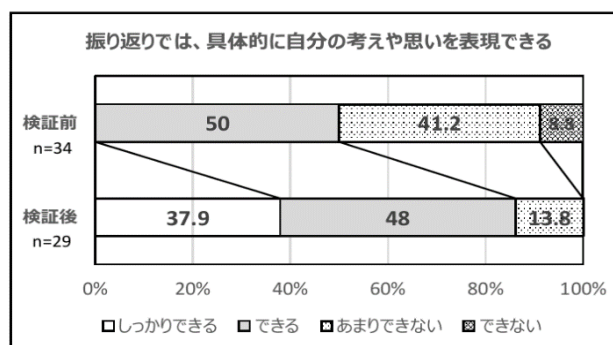


図4 記述力向上の実感

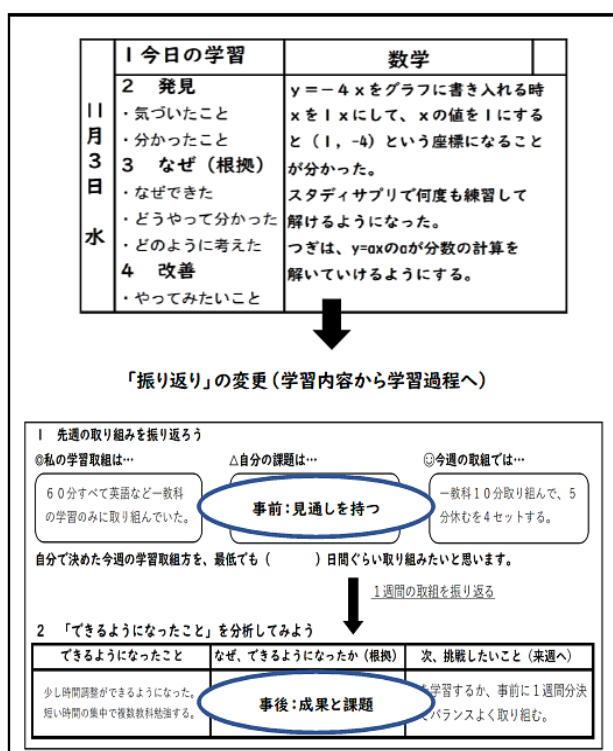


図5 4つの視点の「振り返り」

返りでは、学習内容に着目しすぎて自分自身の成長や改善点が見取りにくい意見があがった。その改善を図るために、「1週間単位で見通しを持ち、その後、取り組みの成果と課題が書きやすいもの」、「1週間の学習状況が見取れるA4サイズの用紙に収まるもの」以上の2点を考慮して、図5のように様式の一部を変更（学習の記録の前に「今週の目標設定」し、後に「取り組みの振り返り」が記述できる）した。このことは、生徒が学習プランニングシートの有効性を理解し、続けて取り組む価値を見だし、PDCAサイクルが生活の中で実践されたと考えられる。

学習プランニングシートの有効性について、授業の振り返りやアンケートを分析する(図6)。検証の前後で、質問項目「課題を自覚し、改善できるように考えて行動している」の項目において、「よく当てはまる」の回答が11.3ポイント、「当てはまる」の回答が19ポイントそれぞれ増加した。これは、学習プランニングシートを活用した振り返りを整理分析することで、成果と課題を自覚し、新たな課題を見だし、学習の好循環を生み出すことにつながったと考えられる。

しかし、図6にあるように3週間の学習プランニングシートの取り組みを通して「あまり当てはまらない」と回答した生徒も13.8%いる。そこで、個別に、学習の取り組み状況を教師と共に振り返る時間を確保して指導を行った。個別指導では、対話を通して生徒の取り組みに価値づけを繰り返し行った。そうすることで、学習プランニングシートの振り返りに「成果はない」や「できなかった」と記入していた生徒が、「3日間、10分勉強に取り組むことができた」「次は、15分の勉強を3日間連続でやってみる」と自分の思いを記述できるようになり、学習に向かう意欲を高めることにつながった。

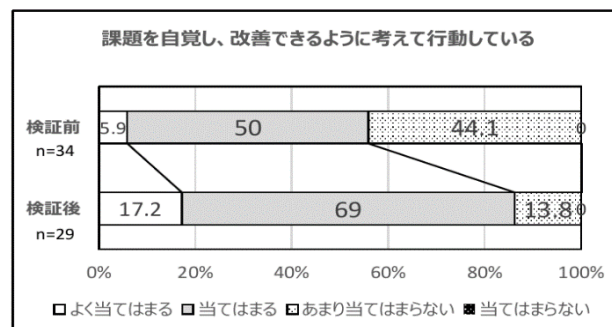


図6 課題の自覚と行動の変容

2 振り返り活動の検証について

(1) 「主体的な学び」を支える振り返り活動の検証

生徒の良い点を伸ばし、自己肯定感を高めながら「主体的な学び」に結びつけるために、教師は生徒の学習の状況を適切に把握し、取り組みへの肯定的な評価を積み重ねるフィードバックを行った。学習プランニングシートを活用した振り返りの検証期間は、図7のように、週はじめに、今週の学習の「見通し」を持たせることから始めた。見通しを持って取り組んだ学習の記録をつけ、週の終わりに、一週間の取り組みを4つの視点を踏まえた振り返りで記述をさせた。実践の途中では、図7のように教師からのコメントでフィードバックを行い、常に

生徒Kの見通しと振り返り		教師からのコメント			
		理科	英語	その他・塾	勉強合計時間
〈見通し〉 ながら学習はせず、短い時間でも集中して毎日続けられるようにする 〈振り返り・新たな課題〉 毎日勉強することができた。長時間やろうとせず、できる分頑張るという気持ちで学習した。今よりも長い時間取り組む。	13分	11分		77分	この時間で明日もがんばろう!
	9分	10分		32分	もっとがんばろう!
	20分	15分		15分	明日もがんばろう!
	15分	15分		15分	お疲れがなくて、明日もがんばろう!

図7 主体的な学びを支える振り返り記述と教師によるフィードバック(抽出)

肯定的なコメントを与え、取り組みを継続して行う態度に価値づけを行った。生徒Kは、教師からのコメントの翌日に「やる気があって、明日も頑張ろうと思った」とコメントを残している。このように、教師は、生徒の見通しに対して学習の記録を適宜把握し、肯定的なフィードバックを行うことで、生徒の「こうなりたい」、「こう成長したい」と思う意欲を高めていけるように促した。生徒は、学習プランニングシートを活用して、学習の記録と振り返りの記述を行い、成果と課題を自覚し、課題解決に向けた具体的な取り組みを意思決定する過程を何度も

体験した。検証後のアンケート質問項目「学習プランニングシートの有効性」に 93.1% (n=29) が、学習の記録と振り返りの視点を意識した記述を通して、学習の成果や課題などを知り、改善する手立てとして効果的であったと回答した。

(2) 学習過程を踏まえた振り返り活動の検証

図 1 のような学習過程をもとに、第 4 時・第 5 時・第 7 時・事後指導を通して図 8 に沿った授業実践を行った。はじめに、第 4 時において、学習プランニングシートに蓄積した振り返りや学習の記録を整理分析し、成果と課題を自覚し、課題解決に向けて自分の考えを持たせた。次に、第 5 時・第 7 時・事後指導を通して、課題解決に向かうために、学級活動の話し合い活動を通して多様な価値に触れながら、学習の自己調整を行い、他の生徒の学習法や課題解決法を参考に、自分なりに達成できる方法や取り組みのステップを考え意思決定につなげた。さらに、相互評価を行いながら、常に肯定的なコメントでお互い支え合う活動を取り入れた。

このような学習過程を通して、生徒の振り返り記述を分析すると、図 9 のように変化が見られた。学んだことを振り返りながら、具体的に取り組むことを記述できるようになった。また、授業の振り返りでは、「振り返りをする

ことで、自分の取り組み方を考えるようになった。」や「これまで、適当に目標を決めていたけど、達成できる目標を考えて行動すると、もっとやろうと思える。」など新たな学習への意欲を引き出すことができたと考える。さらに、検証後アンケートにおいても、「今後も計画・実践・振り返りを意識して、新たな課題を見出しステップで学習に取り組んでいきたい」と答えた生徒が 96.6% (n=29) いた。

事後指導の場では、これまでの学習に対する定期的な振り返りを基に、キャリアパスポートにつなげ、学習や生活で学んだことを振り返りながら、新たな学習への意欲につなげ「なりた

3 「主体的な学び」に向かう力の検証について

本研究では、振り返り活動を通して「主体的な学び」に向かう力が育めたかについて、振り返り活動の学習過程を通して、授業観察（行動観察）、検証の前後のアンケート調査及びキャリアパスポートの記述の変容等を見とる。

検証の前後のキャリアパスポートの記述分析を表 1 の「振り返り」の視点を参考に「A：視点①②③④を含んだ記述」、「B：視点①②③を含んだ記述」、「C：視点①②を含む又は課題のみの



図 8 学習過程を踏まえた振り返り活動

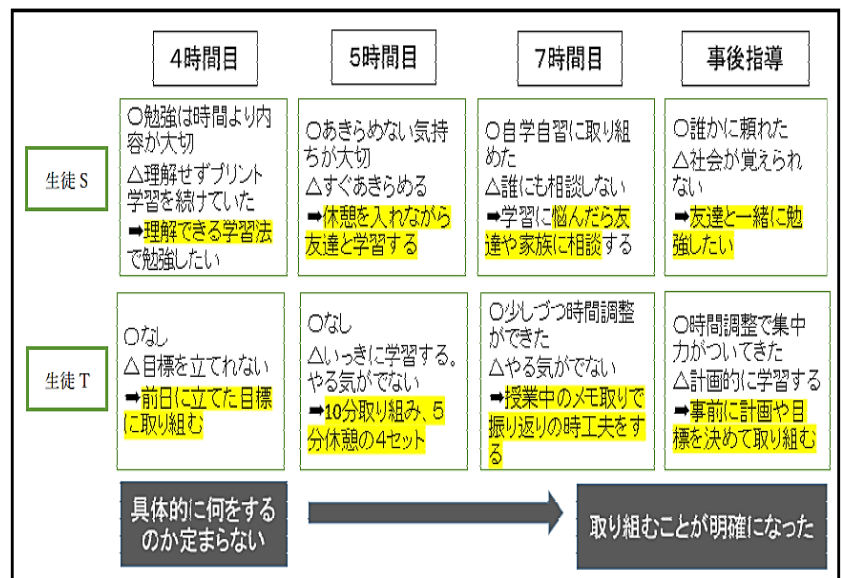


図 9 PDCAサイクルによる学習過程と記述の変容

記述」と位置付けて分析を行った。その結果、図 10 のように記述内容の変容がみられ「A」は、検証の前後で 3 %から 51.1 ポイント顕著に増加しているのが分かる。また、学期末のキャリアパスポートを通して、学習や学校生活内外での成果と課題を自らの言葉で表出し、新たな課題解決に向けての意思決定することにもむすぶことができた。

生徒の記述内容の変化は、学習の記録を整理分析し、他者との関わりのなかで、肯定的な評価を積み重ねる過程を通すことで、変化が見られるようになった。これは、見通しの段階や問題解決の段階で、学習の成果と課題を自覚し、これまでの学習プランニングシートや協働の学習過程を通して、課題解決に向けて自己調整し、意思決定している姿であると捉えることができる。

第 9 時の授業の振り返りでは、「はじめは記録付けとかで大変だったが、自分の強み生かして成長したい」「人の学習法を参考に、自分にできる方法で 3 学期の試験も取り組んでいきたい」など、肯定的に捉える生徒の姿が見られた。このような生徒の言動は、目標の実現に向け、粘り強く取り組み、新たな課題発見につなげようとする姿と捉えることができる。

検証の前後の質問項目「振り返り活動を通した成長実感」の項目において、「良く当てはまる・当てはまる」の回答が 43.1 ポイント増加し(図 11)、学習の計画・実践・振り返りを通して、成果と課題を見出し、自己の成長を実感させることで、「次も頑張ってみよう」と意欲を高めることができた。

しかし、少数だが、成長を実感できていない生徒もいた。そのため、事後指導の場で、良さを自覚する視点の持ち方や活動の振り返りを個別指導で行った。その結果、本研究の終末には、キャリアパスポートに成果と課題を明確に示し、課題解決に向けての意思決定をすることができた(図 12)。さらに、授業参加意欲も向上し、活動に積極的に取り組む姿も見られるようになった。

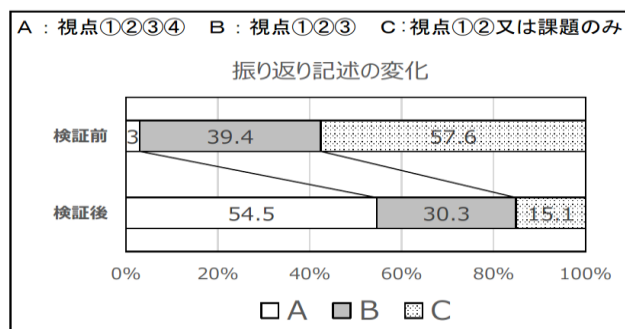


図 10 振り返り記述の変容

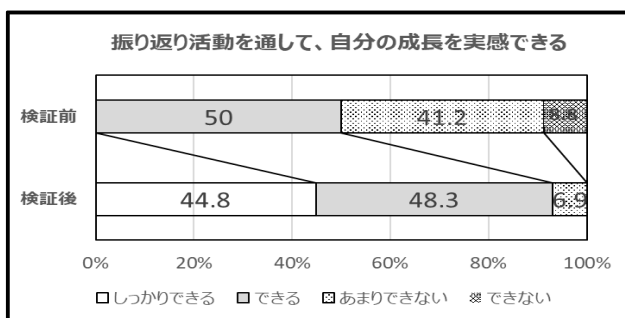


図 11 振り返り活動を通した成長実感の変容

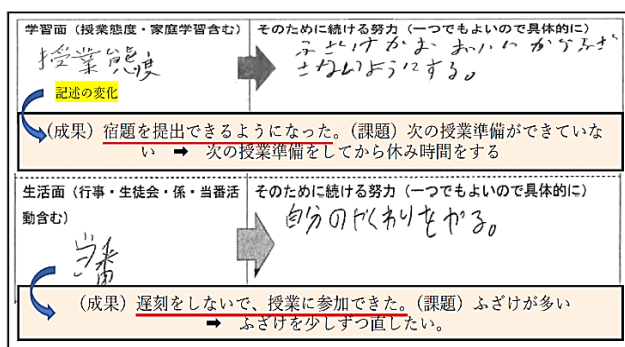


図 12 個別指導による変容 (生徒Mの記述)

V 成果と課題

1 成果

- (1) 学習プランニングシートを活用した自主学習の「振り返り」記録から、学習過程を整理分析することで「成果」と「課題」を自覚し、新たな課題を見いだすことができた。
- (2) 振り返り活動を通して、多様な価値に触れながら課題解決方法を話し合い、自分に合った具体的な解決策や個人目標を意思決定して主体的な学びにつなげることができた。

2 課題

- (1) 「振り返り」の記録付けに留まることが無いように、年間指導計画で自主学習の実践を定期的に振り返る学級活動の位置づけが必要である。
- (2) 個別的な支援が必要な生徒への手立てや指導時間の確保が必要である。

〈参考文献〉

- 沖縄県教育委員会 2021 『沖縄県学力向上推進 5 か年プラン・プロジェクトⅡ 令和3 年度版』
- 国立教育政策研究所教育課程研究センター 2020 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 【中学校 特別活動】』 東洋館出版社
- 藤井千春 2020 『問題解決学習で育む「資質・能力」―誠実な対話力，たしかな情動力，互惠的つながり力―』 明治図書出版社
- 文部科学省 2019 『中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 特別活動編』 東山書房
- 松村英治 相場亨 2017 『「学びに向かう力」を鍛える学級づくり』 東洋館出版社
- 重松敬一 2013 『算数の授業で「メタ認知」を育てよう』 日本文教出版
- 小林恵智 2003 『一日 5 分 奇跡を起こす 4 行日記』 オーエス出版社